

ガザミ

分類：短尾区 方頭亜区 ワタリガニ科 ガザミ亜科(十脚目 爬行亜目)
 学名：*Portunus portunus trituberculatus*
 英名：

北海道南西岸より朝鮮、中国沿岸の浅海特に河口近くの浅海に生息する。同属のタイワンガザミ(*P.p.pelagicus*)はこれより南に生息し相模湾からフィリピン、タヒチ、オーストラリア、アフリカ東岸に分布する。甲の白斑の雲紋模様はタイワンガザミでは顕著に見られるが、ガザミでは鉗脚及泳脚に見られるだけで甲には見られない。歩脚はオリーブ色、強大なる鉗脚は左右同大で長節前縁には4棘ある。ガザミ類は甲の色が雄では青味が強く、雌では暗紫色のものが多く。甲長70mm、甲幅149mm。「ワタリガニ」とも呼ばれ各地で広く賞味珍重される。同亜科のノコギリガザミ(*Scylla serrata*)は鉗脚が頗る強大で歯は鈍頭で大きい。右側は左側より大きい。鉗脚は甲と同様暗青緑色で鉗脚掌部は幼生で紅色、老成したもので褐色である。



タイワンガザミ
 ギルバート・エリス諸島
 -1975-



キューバ
 -1969-



コートジボアール
 -1971-



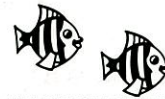
北ベトナム
 -1965-



北朝鮮
 -1967-



ノコギリガザミ
 北ベトナム
 -1965-



ガザミ



キューバ
 -1969-



カメルーン
 -1968-

